

ジャーメイン・リッチ女史のホリスティックアプローチ

私は今から40年ほど前に、ミシュリン・アーシエ女史からアロマセラピーの指導を受けました。アーシエ女史はフランス人で、近代アロマセラピーの先駆者の一人であるマルグリット・モーリー女史から直接アロマセラピーを学んだ数少ない人です。私はアーシエ女史からアロマセラピーを学んだ後、ロンドン中心部にある「マダムアーシエ・アロマセラピークリニック」で8年間アロマセラピストとして従事しました。

私がクリニックで働いていたのは1960年代末から1970年代後半ですが、当時のイギリスではアロマセラピーはまだ珍しく、イギリス国内でアロマセラピー専門のクリニックはマダムアーシエのクリニック1件しかありませんでした。今日では、アロマセラピーが取り入れられている医療機関が増えましたので、当時からみれば、アロマセラピーはずいぶん発展しました。

その後、私は独立し、1984年にアロマセラピーの指導に携わるようになり、1985年にイギリスで最初のアロマセラピストの組織であるIFAを設立するメンバーになりました。以来IFAの活動に深く関わっています。

私のアロマセラピーは「ホリスティック・アプローチ」に基づいています。

「ホリスティック」と言っても抽象的でわかりにくいと思いますが、私のコースの最初の講義は「ホリスティックとはどういうことか」を学ぶところから始まります。実際に私たちアロマセラピストがクライアントをトリートメントするときは、単に身体的な部分だけをみるのではなく、あらゆる側面をみる、ということが「ホリスティック・アプローチ」です。例えば、精油を選ぶときに「この精油を選ぶのは、この身体的症状があるから」と考えますが、身体的症状をみることは勿論大切ですが、感情面はどうか、どういう状況なのか、どういうライフスタイルを過ごして

いるのか、そういうところもみていくということです。

イギリスでは、アロマセラピーは補完代替療法として認められています。アロマセラピストは医療資格ではありませんので、病気そのものに対して医療的な働きかけはできません。実際にクライアントを前にして、これは私（アロマセラピスト）がして良いことなのか、あるいは医師の許可や相談が必要なのか迷うことがあります。その判断を正しく行うために、解剖生理学や病気の知識が必要になります。このことが解剖生理学や病気を学ばなくてはならない理由の一つです。アロマセラピストは解剖生理学や病気について、実際にトリートメントできる範囲を越えた領域まで勉強して知っておく必要があります。

イギリスでも日本でも同様ですが、プロフェッショナルになるためのアロマセラピーコースを受講したことでキャリアを変える人もいます。オフィスワークやサービス業をしていた人で、キャリアを全面的に変えた人は少なくありません。また、看護師やエステシャンとして仕事をしていて受講する人も少なくありません。このような経験のある方は、コースを受講することで、すでにお持ちのキャリアと統合することを目的に受講されます。

私がアロマセラピーコースで焦点を当てているのはホリスティック・アプローチを行なう、ということ、そして資格を取得してプロとして活動していく、ということが目的です。

アロマセラピストになるためには沢山勉強しなくてはならないですが、学ぶことは楽しい、という工夫をしています。一つ覚えておいていただきたいのは、興味をもって最後まで頑張ろうと決めて進んでいただければ、ご自身の上達に驚かれると思います。そして、今後さまざまな分野で活躍していく基礎になります。